

風土記の丘の花だより 186

今、そしてこれから見られる植物（2023年5月20日）

暖かさを通り越して暑い日が続きました。草木や虫たちはさぞかしビックリしたことでしょうね。今回も4種類の植物を紹介します。



1つ目はコジキイチゴです。細長く白い花びらが特徴です。すでに花のピークは過ぎて、わずかな残り花とまだ青い実を見ることができます。木いちごの仲間ですが、食べてもそれほどおいしいものではありません。（個人の感想です）コジキという言葉は今では使わなくなりましたが、元は「乞食・こつじき」という仏教用語です。それが「こじき」となり、余りいい意味では使われなくなりました。茎には細かいトゲがびっしり付いていて、全体が赤く見えます。ご存じの方はキーウィの新芽を思い浮かべるかもしれませんね。



2つめはセンダンがいいかなと思いましたが、これをご覧になる頃には花が終わっているでしょうから、ネジキにしました。透明感のある純白の花がまさに鈴なりに咲いています。ツツジの仲間ですが、サツキなどではなく、ドウダンツツジに似た釣り鐘型の花です。この木の名前はご承知のとおり、樹皮が捻れていることによります。臭う木は「クサギ」茎に穴が空いていたら「ウツギ」酸っぱかったら「スノキ」など、木の名前には、ヒネリのない名前もけっこうありますね。



3つめは草にします。オヤブジラミです。セリ科ですから、ニンジンなどと同じ仲間です。漢字で書くと「雄藪虱」。シラミは年配の方ならご存じと思いますが、体に付くと取り除きにくい虫です。この草の実が衣服に付くと取りにくいので、藪のような草むらに生えるシラミなのです。雄は大きいという意味です。ただのヤブジラミという草もあり、それより実が大きいのです。今はまだ青いですが、実が熟すと、ちょっと草むらを歩いただけで、この丸いひつつき虫がいっぱい付いてきます。



最後は華やかさに欠ける(?)イネ科の雑草です。名前はネズミムギです。イネ科の花は小さな花がいくつかが集まってひとかたまりになって、またそれが集まって「穂」を作ります。この草はまっすぐに伸びて、上で少し垂れる姿が特徴的です。元々は牧草として持ち込まれ、それが日本国中に広がった外来植物です。よく似たホソムギというのもあります。それには毛(ほんとは のぎ といいます)がありません。また、比べて見てみてください。

松下